

平成24年9月20日

会 員 並びに 支援者 各位

歯科医療の未来を語る懇談会

代 表 脇 本 征 男

拝啓 皆様、ご無沙汰致しておりました。お元気にてお過ごしのことと存じます。

平成24年8月11日（土）、移転された新宿法律事務所で久しぶりの世話人会を開きました。川上先生や皆さんにお会いでき、また新たな勇気が湧いて参りました。

この間、小生のわがままから歯科技工士の一分にかけて意志貫徹のためとは言え、3回の挑戦を試みましたが、（日技会長選、連盟会長選、新公益法人理事選）結果はできレースにはねつけられました。現在の歯科技工士の組織で先に起って頑張って居られる方々は、個人的には業界の不条理に激怒し、現状を憂い、小生の未来志向や打開策に共鳴頂き、業界改革の鋭気旺盛なるをもって共感して頂けるのですが、「組織」の中にあっては村八分の恐怖からでしょうか、古い業界組織から脱皮できない現況を目の当たりに突き付けられた観が致しました。

長年（昭和47年より）会員として在籍していながら、恥ずかしながら自らの未熟さと勉強不足ゆえの結果と率直に認め、猛省を余儀なくさせられております。

但し、現実の日技は、悲惨なまでに激減低下した組織力（率）や更に数多爆発寸前にある退会予備軍の待機、未入会も含む全歯科技工士の悲痛な叫びも顧みず、旧態依然として体裁面を重んずる形式依存型の執行ありきで、どなたか曰くあたかもお役所御用達組織の感は否めません。

歯科技工士としての目的と社会的使命を思い、現状の救われない生活や経済環境に心を馳せる時、未来志向に一分の夢と希望を託しつつ歩み続け、「あきらめること」をあきらめて辿り着いた私たちの現状がここに至りました。

結果、人間として多くの失念に触れさせて頂くとともに、されど再度自らが立ち上がらなければ何も変わらないことの結論を得ました。

歯科技工士には立派な法律があります。業権に関わる違法行為に対しても、単なる「指示に従う業」であるから「指示する側」の裁量にすべてが委ねられるをもって良しとする。つまり歯科技工士が主体的に訴訟などできる立場にはないと言うことらしいが。

日技も厚生労働省も、自国の歯科技工士制度を維持・充実・発展させる意志の原点が国民を守るための「法律」にあることをお忘れてはいないでしょうか。

一連の流れのなかで、法律がありながらねじ曲げられた歴史の推移を見ると、今、業界改革を毅然として断行しない限り、歯科技工士は救われないと考えます。

その一つには、歯科技工（士）は「歯科医療」であるのか、単なる「製造業」であるかの

確執を抱えながら、誰もが法律上での業の成り立ちであることを軽視（無視）していることです。

「歯科技工士法」では間違いなく歯科医療の一部です。

「非営利」の医療の中に営利を追求の「会社組織」という矛盾存立を抱えたまま曖昧な業界経済は息づいております。

この曖昧さから法律を無視し、「通達」一本で海外委託の違法性を「取り成そう」とする行政行為は、わが国における歯科医療制度崩壊の危惧を禁じ得ません。

また、歯科技工士の患者に対する対面行為の可否、度合い等、患者のためにより良質な歯科医療推進上、環境整備等を歯科医師と大いに議論し、歯科医師の需要に真摯に供給できる体勢作りを整える事が肝要であると考えます。

昭和36年以降の国民皆保険制度のわが国において、殆どの歯科技工士は「保険の仕事」として健康保険歯科診療報酬の製作技工部門を担当し、国策に則った公益の仕事をして参りました。

しかし何の恩典、便宜、救済措置は無く、増してや憲法に帰依する衛生行政上医療の分野に位置づけられているにも拘わらず「医療機関」では無いという理由から、そう言う支払制度等には一切組み入れられることもなく、昭和63年の「大臣告示」もうやむやに未解決のまま、「保険の仕事」として粛々と生計を立てて来たのが実態です。

まず、歯科技工士個人では解決が至難でありながら生活の基軸でもあり、長年おざなりにされてきた健康保険診療報酬の「委託技工料」の問題があります。

第一回「歯科医療の未来を語る懇談会」は、今年12月頃を目途に東京都に於いて、「歯科技工士の経済問題について考える」というテーマでの開催を予定しております。追って詳細はお知らせ致します。

私たちの裁判で、歯科技工士制度が否定された訳でも免許制度が無くなったわけでもありません。ましてや、「海外委託は合法である」と決定された訳でもありません。

法律の性格上、今回の訴訟は司法にはなじまないと判断されたことを重く受けとめ、今後は立法・行政にステージを移しながら、あきらめることなく、国民患者のために存在する歯科技工士のために、私たちの可能な力を結集し邁進したいと考えております。

私たちの小さい力の活動で、より優れた提言にまとめられますよう、皆様方のより一層のご理解ご協力を心からお願い申し上げます。

敬具